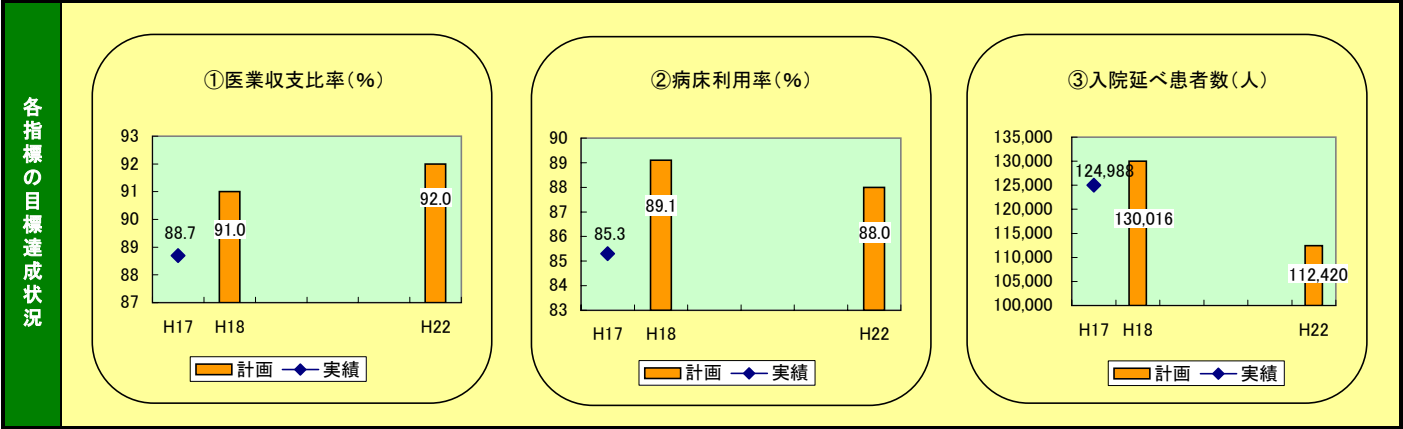


平成18年度 伊丹市行政評価 ～施策評価編～

施策コード	1327	施策名	市立伊丹病院の機能整備
-------	------	-----	-------------

「これから5年間のまちづくりプラン」における位置付け	視 点			項 目					
	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現			きめ細かな地域福祉の推進					
評価担当部局名	伊丹病院	関連部局	—		事業費合計 (百万円)	H17(決算) 718.6	H18(予算) 456.6		
目指すべき 目標・状態	地域の中核病院として、市民に対し適切な医療サービスの提供ができるよう、建物の環境整備（電気、空調、衛生設備等）や医療水準の向上を目指した医療機器の購入・更新を行う。また、電子カルテ導入により、診療情報の共有化・診療内容の高度化を図り、チーム医療の推進、患者に対する看護の充実などにより患者サービスの向上を図り、市民に信頼される病院を目指す。								
施策を取り巻く環境	医療費抑制のための診療報酬引き下げなどの制度改正、新臨床研修医制度に起因する医師不足や患者意識の変化等により、自治体病院は急速に経営状況が悪化している。本院も同様に厳しい経営状況ではあるが、自治体病院の使命である地域における市民・患者が安心して暮らせるために、高度医療や救急医療といった採算性が低い医療を担うなど、適正で迅速な医療を受けることのできる医療提供体制の整備に努めることが求められている。								
成果を 測定する指標 （上げた方が良い指標の場合「↑」、下げた方が良い指標の場合「↓」を指標名の右側に記載。 H22年度計画値欄は、それ以前に終期を迎えるものはその年度の計画値。）	指標名(単位)		算式等		現状 (H17年度)	H18年度		H22年度	計画 達成率 (%)
						計画値	実績値	計画値	
	①	医療収支比率（％）	↑	医療収益／医療費用×100 ※80の場合、医療で80の収入を上げるのに100の費用がかかっていることを示す。（17決算自治体病院平均 90.3％）	88.7	91.0	—	92.0	—
	②	病床利用率（％）	↑	延べ入院患者数／延べ病床数 ※平成19年度以降は認可病床数414床であるが、平成18年7月から休床分を除いた稼働病床数350床で計算している。（17決算自治体病院平均 80.3％）	85.3	89.1	—	88.0	—
	③	入院延べ患者数（人）	↑	—	124,988	130,016	—	112,420	—
評価結果	19年度から実施します。		評価の判断理由	施策全体の評価については、今年度設定した施策目標・成果指標の達成状況などを実績に基づき総合的に判断して行うこととなります。今年度は、評価実施初年度でそうした実績に基づく評価ができないため、来年度から評価を実施することとしています。					



実施している事務事業と評価結果					
No	事務事業名				評価結果
	活動指標(単位)	H17計画値	H17実績値	H18計画値	
①	市立伊丹病院建物施設等保全事業				A
	指標なし	—	—	—	
②	市立伊丹病院電子カルテシステム導入事業				C
	指標なし	—	—	—	
③	市立伊丹病院医療機器整備事業				B
	医療機器購入率(%)	—	—	—	
④	【新規】市立伊丹病院の機能強化				C
	指標なし	—	—	—	
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					

※事務事業名に【新規】の表記がある事業はH18年度開始事業、【未実施】の表記がある事業はH19年度以降に開始予定の事業です。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132701		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	市立伊丹病院建物施設等保全事業		担当部署・課	市立伊丹病院 総務課				
事業内容	昭和58年3月竣工の病院で、特に設備面で修繕、更新が必要な時期にきており、院内電気設備、衛生設備、空調設備、搬送設備他各設備について、経年劣化の度合いを考慮しながら、年次的・計画的に補修・修繕を行う。		事業開始(予定)年度					
			平成12年度					
			事業終了(予定)年度					
			—					
この事業の 上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	市立伊丹病院の機能整備					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	昭和58年3月竣工後22年が経過し、経年劣化した院内電気設備・衛生設備・空調設備・搬送設備等の修繕・更新が必要なため		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 企業会計 (項) — (事項) — (目) —				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	186,716千円	財源内訳		事業費	143,752千円	財源内訳	
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—
			市 債	186,700千円			市 債	143,700千円
			その他(使用料等)	16千円			その他(使用料等)	52千円
			一般財源(市税等)	—			一般財源(市税等)	—
	投入人員	1.00人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	1.00人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	8,566千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	8,566千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	195,282千円		経費合計	152,318千円			
活動指標	指標名(単位)	指標なし		計画と実績	年度 区分	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	—			計画値	—	—	
					実績値	—		

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132702		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	市立伊丹病院電子カルテシステム導入事業		担当部署・課	市立伊丹病院 医事課				
事業内容	昨年度実施したオーダーリングシステム更新に引き続き、診療情報の共有化を図るとともに、診療の質の向上と業務の効率化に資するため、電子カルテシステムを導入する。		事業開始(予定)年度					
			平成17年度					
			事業終了(予定)年度					
		平成18年度						
この事業の 上位施策	これから5 年間のまち づくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	市立伊丹病院の機能整備					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	カルテを電子化することにより診療情報の共有化を図り、効率的で質の高い安全な医療を提供する環境を整備するため。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 企業会計 (項) — (事項) — (目) —				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	322,655千円	財源内訳		事業費	200,000千円	財源内訳	
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—
			市 債	322,600千円			市 債	200,000千円
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	55千円			一般財源(市税等)	—
	投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
経費合計	322,655千円		経費合計	200,000千円				
活動指標	指標名(単位)	指標なし			計画と実績	年度 区分	H17年度	H18年度
	意味・算式等	—				計画値	—	—
						実績値	—	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132703		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。				
事務事業名	市立伊丹病院医療機器整備事業		担当部局・課	市立伊丹病院 総務課			
事業内容	地域の中核病院として、適切な医療サービスが提供できるよう、計画的に医療機器の整備等医療体制の充実、強化を図るとともに、日進月歩の医療水準の維持向上を図るため、手術用器材をはじめ、血液、生化学等の検査機器やX線装置等を年次的に更新する。		事業開始(予定)年度				
			平成12年度				
			事業終了(予定)年度				
			—				
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現				
		項目	きめ細かな地域福祉の推進				
		施策	市立伊丹病院の機能整備				
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。						
事業の目的	地域の中核病院として、適切な医療サービスが提供できるよう、計画的に医療機器の整備等医療体制の充実、強化を図るとともに、日進月歩の医療水準の維持向上を図るため。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 企業会計 (項) — (事項) — (目) —			
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)				
	事業費	209,205千円	財源内訳				
			国・県補助金等	—			
			市 債	206,600千円			
			その他(使用料等)	—			
			一般財源(市税等)	2,605千円			
	投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
	経費合計	209,205千円		経費合計	100,000千円		
	活動指標	指標名(単位)	医療機器購入率(%)		計画と実績	年度 区分	H17年度
意味・算式等		医療機器年間購入額÷年間購入予算額		計画値		—	—
				実績値		—	

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132704		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	【新規】市立伊丹病院の機能強化			担当部局・課	市立伊丹病院 総務課			
事業内容	地域の中核病院として医療水準の維持向上を図るため、病院機能を強化する方策を講じる。具体的には、院外処方の完全実施や各診療科の病床再編、職員の再配置や医師の確保等を行う。また、現在策定中の中期経営計画に基づき、経営基盤の強化等市民のニーズに合致した病院の機能強化に努める。			事業開始(予定)年度		C		
				平成18年度				
				事業終了(予定)年度				
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	市立伊丹病院の機能整備					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年（H18～22年度）に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。					評価結果 上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。		
事業の目的	地域の中核病院として市民に信頼され、ニーズに合致した医療機能を確立するとともに、経営基盤の確立に努め、医療環境の変化にも柔軟に対応できる病院となるため。			予算費目 （複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。）	(款) 企業会計 (項) — (事項) — (目) —			
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	平成18年度から開始された事業です。 本事業については、実績に基づく評価はできませんが、実施中の本事業の効果を現時点で想定した上で、施策目標の達成に向けた相対的な重要度や、貢献度の判断に基づいて評価を実施しています。			事業費	12,810千円	財源内訳		
						国・県補助金等	—	
						市債	—	
						その他(使用料等)	—	
				一般財源(市税等)		12,810千円		
	投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)					
人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。						
経費合計	12,810千円							
活動指標	指標名(単位)	—			計画と実績	年度	H17年度	H18年度
	意味・算式等	—				区分		
						計画値	—	—
					実績値	—		

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。